

| | | | |
|--|--|--------------------------------|-----|
| 講義名: 日本史 01<通期> 曜日1: 水1 担当教員名: 黒川 伊織 | | ナンバリングコード: HIST1010 曜日2: 水1 | |
| 研究室: 兼任講師控室 | オフィスアワー: 授業前後 | メールアドレス: | |
| 授業形態 | | | |
| 『講義』 | | | |
| 講義・演習概要 | | | |
| 本講義では、主として中学・高校で歴史教育に携わることを想定している学生を対象に、原始古代から近現代までを対象に、東アジア史・世界史との関係を視野に入れて日本史を講ずる。あわせて、教育現場で「史実」の背後にある人々の「暮らし」を語ることができるよう、現代史につながるさまざまなトピックを適宜講ずる。真剣に日本史を学び、歴史教育の現場に活かそうとする強い意欲を持つ学生の受講を求める。 | | | |
| 学習(到達)目標 | | | |
| 春学期では、①「歴史総合」を視野に入れ世界史と日本史の相互関係を通時的に講じるとともに、②前近代史(原始古代～19世紀半ば)の講義を行う。 秋学期では、国内政治の動向と国際関係の変容に着目して、近現代史(19世紀半ば～現在)の講義を行う。 通期科目である本講義の最終的目標は、「歴史の流れを通時的かつ国際的視野に立って把握する力」を養うことにある。 | | | |
| 講義・演習計画 | | | |
| 【第1回】 日本史の時代区分について 成績評価の説明 | 【第16回】 松方財政と大日本帝国憲法 | | |
| 【第2回】 戦後日本の出発:サンフランシスコ講和条約と「4月28日」 | 【第17回】 朝鮮・満洲をめぐる対立 | | |
| 【第3回】 世界史と日本史① 元号と暦 | 【第18回】 産業革命と「格差」の誕生 | | |
| 【第4回】 世界史と日本史② 世界史のなかの日本 | 【第19回】 政党政治の成立と展開 | | |
| 【第5回】 世界史と日本史③ 人口の超長期的推移:前近代 | 【第20回】 韓国併合から第1次世界大戦へ | | |
| 【第6回】 世界史と日本史④ 人口の超長期的推移:近現代 | 【第21回】 民族自決と朝鮮 | | |
| 【第7回】 東アジア世界とヤマト政権 | 【第22回】 ヴェルサイユ・ワシントン体制 | | |
| 【第8回】 東アジア世界の国際秩序の形成 | 【第23回】 世界恐慌から満洲事変へ | | |
| 【第9回】 東アジア世界の貿易の発達 | 【第24回】 総力戦の時代 | | |
| 【第10回】 最初の世界の一体化と日本 | 【第25回】 帝国の解体と占領経験 | | |
| 【第11回】 東アジア世界と海禁体制 | 【第26回】 「55年体制」と高度経済成長 | | |
| 【第12回】 二度目の世界の一体化と東アジア/日本 | 【第27回】 新保守主義から新自由主義へ | | |
| 【第13回】 明治維新と国境画定 | 【第28回】 「失われた30年」①:人の移動から考える20世紀の日本 | | |
| 【第14回】 「日本」「日本人」意識の形成 | 【第29回】 「失われた30年」②:21世紀の人の移動と日本 | | |
| 【第15回】 春学期講義内容復習 | 【第30回】 秋学期授業内容復習 | | |
| 成績評価の方法 | | | |
| 試験 | 0% | レポート | 50% |
| コメント | レポート(1回2000字、2回)と出席点(講義後にコメント提出)による。 「歴史の流れを通時的かつ国際的視野に立って把握する力」を身につけることを目的とする講義のため、ただ出席しているだけでは、単位の取得は極めて難しい。本講義を履修するにあたっては、主体的に歴史を学ぼうとする意欲を強く求める。 | | |
| テキスト | | | |
| 著書 | | タイトル | |
| ISBN | | 出版社 | |
| 教科書購入区分 | 選択なし | 備考 | |
| 著書 | | タイトル | |
| ISBN | | 出版社 | |
| 教科書購入区分 | 選択なし | 備考 | |
| 著書 | | タイトル | |
| ISBN | | 出版社 | |
| 教科書購入区分 | 選択なし | 備考 | |
| 参考文献 | | | |
| 各自が中学校の時に利用した『歴史分野』の教科書(東京書籍、帝国書院、山川出版社、教育出版、日本文教出版、育鵬社、学び舎)、高校で利用した『日本史A』の教科書(東京書籍、実教出版、清水書院、山川出版社、第一学習社)、あるいは『日本史B』の教科書(東京書籍、実教出版、清水書院、山川出版社、明成社)を参照することが望ましい。 | | | |
| 事前および事後学習の指示(事前学習 60 時間・事後学習 60 時間) | | | |
| 事前にM-Portで講義資料をダウンロードすること。講義中は、自らノートをとることで、歴史の流れを通時的に把握できるよう常に努力してほしい。スマートフォンなどで画面を撮影すれば理解できる講義ではない。 | | | |
| その他備考(担当教員用) | | | |
| | | | |
| キーワード | | | |
| | | | |
| 備考(管理者用) | | | |
| | | | |